



Adobe® Anywhere

サーバークラスターによる映像編集処理の集約と
プライベートクラウドベースによる協調制作を実現する革新のテクノロジー

従来の協調制作環境では、共有ストレージとノンリニア編集クライアント端末間の接続は、同じ設置環境における広帯域ネットワークの有線接続が必須とされてきました。これに対して Adobe Anywhere の環境では、共有ストレージと Premiere Pro クライアント端末間の映像データのやりとりは、Anywhere のコアテクノロジーの一つであるクラスターサーバー「Anywhere Mercury Streaming Engine」(AMSE) が行うリアルタイム・エンコード処理によって、低ビットレートのストリーミングデータでのやりとりが可能となり、ストリーミングによる映像編集が可能となります。このことによって、ストレージと編集端末の接続には広帯域のネットワーク接続が必要なくなり、一般的なネットワーク接続や Wi-Fi 接続でも共有環境が構築でき、さらに、異なる場所や遠隔地にまたがった複数のクライアント端末間でも協調制作ワークフローの構築も可能になります。映像制作にもとめられる協調制作ワークフローが、どこでも可能になる技術、それが Adobe Anywhere です。

マルチユーザー、マルチアプリケーション、マルチデバイス間でのプロジェクト共有を実現する新しい協調制作ワークフロー

Adobe Anywhere では、別のコアテクノロジーである、「Anywhere プロダクション ファイル」によって、種類の異なる Adobe Creative Cloud 映像制作ツール間でメディアへのリンク情報および、メタデータの共有が可能です。これによって Anywhere の環境では、遠隔地間の複数の Premiere Pro 編集端末による、一つの編集プロジェクトの共有・分業が容易に行えるだけでなく、撮影場所から Prelude 端末からインジェストやロギングを行い、一般的な LAN 回線に繋がったオフィスや自宅の Premiere Pro 端末で仮編集を行い、ポストプロダクションのオンライン編集用 Premiere Pro 端末でフィニッシングを行い、完パケ・クリップやシーンを Anywhere iPad アプリからプレビューするといった連携が非常にシームレスに行えます。



Adobe Anywhere サーバー・クラスター



Anywhere Collaboration Hub (ACH)

Adobe Anywhere における協調制作の中核を司るのが Anywhere Collaboration Hub (ACH) です。Anywhere プロダクションファイルの管理から、クライアント端末間での排他処理、バージョン管理、バックアップ管理などさまざまな機能を備えています。

Anywhere Mercury Streaming Engine (AMSE)

Adobe Anywhere では、クライアント端末との映像データのやりとりは、すべてストリーミングによって行われ、実データのやりとりは行われません。このことを可能にしているのが Anywhere Mercury Streaming Engine (AMSE) です。

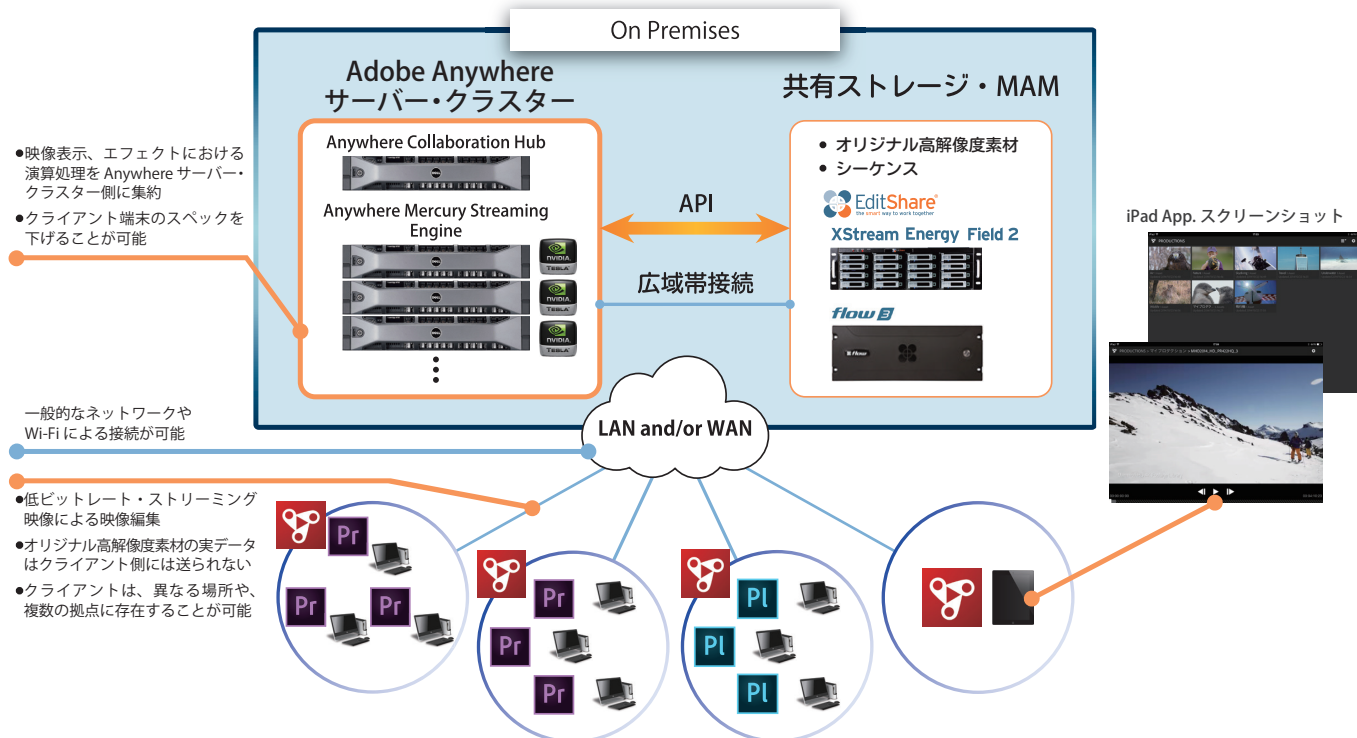
AMSE によってオリジナルの高解像度素材は、クライアント端末からのアクセスに応じて、軽いストリーミングデータにリアルタイムでレンダリングされ、端末に配信されます。

すべての AMSE サーバー・ノードには NVIDIA Tesla GPU が搭載され、クライアント側のエフェクト処理に割り当てられます。

Adobe Anywhere による設備投資上のメリット

上述の通り、Adobe Anywhere では AMSE の動きによって、従来クライアント端末側で行っていた映像の表示やエフェクトにおけるレンダリングを全てサーバー側の処理で行います。このことによって、クライアント端末には高速な CPU や GPU が必要なくなり、ロースペックなマシンでも十分なパフォーマンスを得ることが可能となります。その結果、企業や学校では、ユーザーごとの高価なクライアント端末への投資から解放され、設備投資はサーバー側設備に集中することが可能となり、コストの削減・効率化を図ることが可能になります。

Adobe Anywhere システム構成例



インテグレーションによるさまざまなシステムとの連携とコンテンツマネジメント

Adobe Anywhere には、さまざまなシステム、ソフトウェアと連携を可能にする強力な API が提供されます。Anywhere システムでは共有ストレージおよび MAM との連携が必須ですが、弊社ではこの API および Premiere Pro カスタムパネルを用いて、EditShare 社の共有ストレージや MAM との連携を提供いたします。

例) :

- Anywhere システムが生成するプロダクションデータに対して、VGI 開発による独自のコンテンツマネジメントによってメディアやメタデータの統合と一元管理の提供
- Anywhere で作業を自動化し、制作と運用に係る作業コストの低減をサポート

また今後弊社の Anywhere 担当チームは、Anywhere API によるインジェストやアーカイブシステム、それ以外にもさまざまなサードパーティ製品とのさまざまなインテグレーション・サービスを提供します。

Adobe Anywhere API 連携



Adobe Anywhere Official Integrator

Adobe Anywhere は、アドビシステムズ 株式会社 が認定するシステム・インテグレーターによって、システム・インテグレーションが行われます。弊社は国内第一号として認定された Adobe Anywhere System Integrator です。



Adobe, Premiere, After Effects, Prelude は Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ 株式会社) の登録商標です。

VG Visual Graphics Inc.

ビジュアル・グラフィックス株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-1-7 タマビル恵比寿 2F

TEL : 03-6277-1891 FAX : 03-3447-3900

E-mail : vgi@vgi.co.jp http://www.vgi.co.jp